

田んぼの生きもの図画・川柳表彰式 小学生10名を表彰

「田んぼの生きもの図画・川柳表彰式」が11月20日、市役所で開催され、応募のあった図画86作品、川柳348作品の中から各作品合計10作品が優秀作品として選ばれ表彰されました。

このコンクールは、環境や生きものにやさしい農業を推進する小松島市生物多様性農業推進協議会が毎年市内の小学生を対象に作品を募っています。なお、応募作品は1月25日(金)まで小松島ショッピングプラザルピアにて展示しています。

受賞者は次の方々です。(敬称略)



表彰された小学生たち

図画部門最優秀作品



内多 新 (新開小2年)

川柳部門最優秀作品

「田んぼはね 生きもの育つ 樂園さ」

本田 湧明 (立江小5年)

- 【図画優秀賞】 前川 櫻介 (坂野小2年)
- 【図画優秀賞】 濱口 翔陽 (坂野小3年)
- 【図画優秀賞】 森 凜子 (北小松島小5年)
- 【図画会長賞】 佐藤 佑樹 (新開小3年)
- 【川柳優秀賞】 上浦 千颯 (芝田小2年)
- 【川柳優秀賞】 橘 舞桜 (南小松島小1年)
- 【川柳優秀賞】 浅村 芽奈 (南小松島小1年)
- 【川柳会長賞】 伴 幸帆 (児安小5年)

小松島市の木質素材応援コーナー

木づかいコラム



木づかいのすすめ

ご家庭で、職場で、学校で、身のまわりのさまざまなところで使われている「木」。外国から輸入された木や国産の木、また天然の木や加工された木などがどのように使われているか考えながら木を使う、そんな「木づかい」が求められる時代になってきています。

木を切ることは環境破壊というイメージを持たれる方もいらっしゃると思います。しかしながら、日本は豊かな森林を持っており、その四割は人工林です。人工林は、育て、切って、また植える、このサイクルを繰り返すことで永久に木材を生産することができ、山林の環境維持から地球温暖化防止までさまざまな効果が期待されています。

このことから、国産木材を積極的に使うことが、むしろ環境保護につながる。それを知ることが「木づかい」の第一歩です。

県立みなと高等学園にヘルメットを寄贈



ヘルメット贈呈式の様子

平成30年11月1日より徳島県内の高校としては初めて、通学の自転車運転時にヘルメットの着用することとした県立みなと高等学園に対し、ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区 (小松島) から同校PTAにヘルメット30個が贈られ、同月19日に贈呈式が開催されました。

贈呈されたヘルメットは、PTAより生徒に対するレンタル用として活用されるとのことです。